

P. 6

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-42934

(43)公開日 平成10年(1998)2月17日

(51)Int.Cl.*	識別記号	片内整理番号	FI	技術表示箇所
A 4 5 D	6/00		A 4 5 D	6/00
	6/04			6/04
	7/04			7/04
				Z

審査請求 未請求 請求項の数 8 OL (全 6 頁)

(21)出願番号 特願平8-202228

(22)出願日 平成8年(1996)7月31日

(71)出願人 586112491

株式会社エニシ

福岡県福岡市博多区東那珂1丁目17番18号

(72)発明者 福岡 一郎

福岡県福岡市博多区東那珂1丁目17番18号

株式会社エニシ内

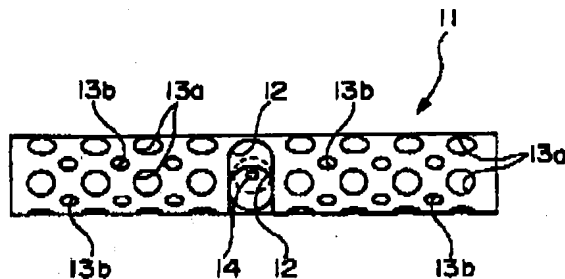
(74)代理人 弁護士 川▲崎▼ 研二 (外1名)

(54)【発明の名称】 パーマ用カールペーパー

(57)【要約】

【課題】 巻いた髪を固定するためのスティックを通しやすくしてパーマ作業の容易化、短時間化が図られるパーマ用カールペーパーを提供する。

【解決手段】 髪のカール状態を保持可能とする所定の剛性を有する紙状素材により、カールさせる髪束の長さ、幅に応じた寸法を有する略長方形形状に形成する。髪束の幅方向に沿って合わせられるその幅方向の略中央部に、髪のカール状態を保持させるために髪に貫通させるスティック14の挿通孔12を、長さ方向に沿って延びる長孔に形成し、かつ長さ方向に間隔をおいて複数並べて形成する。巻かれた状態で径方向に並ぶ挿通孔12は同方向に直線的に連続しやすく、それら挿通孔12にスティック14を通しやすい。



(2)

特開平10-42934

1

2

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 髪をカールさせ、その髪にパーマ液を注いでパーマをかけるにあたり、髪をカールさせる際に髪とともに巻くパーマ用カールペーパーであって、髪のカール状態を保持可能とする所定の剛性を有する紙状素材により、カールさせる髪束の長さ幅に応じた寸法を有する略長方形に形成され、髪束の幅方向に沿って合わせられるその幅方向の略中央部には、髪のカール状態を保持させるために髪に貫通させるスティックの挿通孔が、長さ方向に沿って延びる長孔に形成され、かつ長さ方向に間隔をおいて複数並設されていることを特徴とするパーマ用カールペーパー。

【請求項2】 前記挿通孔の長さは、髪とともに当該カールペーパーを巻いた状態において、径方向に沿って位置する複数の挿通孔の一部が互いにラップするよう設定されていることを特徴とする請求項1に記載のパーマ用カールペーパー。

【請求項3】 前記挿通孔の他に、前記パーマ液を通過させる複数の透孔が点在形成されていることを特徴とする請求項1または2に記載のパーマ用カールペーパー。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、髪にパーマをかける際に髪とともに巻くパーマ用カールペーパーに関する。

## 【0002】

【従来の技術】 従来、髪にパーマをかけるには、まず、髪を櫛ですいて髪束を形成し、その髪束のカールさせる外側にカールペーパーをあてるとともに内側の髪の先端にロッドをあて、次いで、髪束とカールペーパーをともにロッドに巻き、その状態をロッドの両端にわたってかけた輪ゴムで保持する。この後、パーマ液を注いで所定の処理時間を経過させる、といった方法が採られている。

【0003】ところが、このような方法では、特にロッドで髪束を巻き輪ゴムでとめる作業が煩雑で時間がかかり、かつロッドも多量に必要になってコストもかかるといった問題があった。そこで近年では、巻かれた髪束が保持されるある程度の剛性を有する紙状素材で形成されたカールペーパーを用いることにより、ロッドを用いることなく髪束を巻く方法が開発されている。

【0004】図6は、その種のカールペーパーを示している。このカールペーパー1は、髪束に応じた長さ幅を有する長方形に形成され、パーマ液を通過させるための多数の丸い透孔2が全面に点在形成されている。このカールペーパー1を用いて髪束を巻くには、髪束に当該カールペーパー1をあて、棒状に形成されたカーラーのスリットに髪束とカールペーパー1を差し入れた後、カーラーを回転させて髪束とカールペーパー1をカーラーに巻く。次いで、カーラーを抜き、幅方向の中央部の

透孔2に図示せぬスティックを通して、巻かれた髪束の径方向に貫通させる。スティックにより髪束とともに巻かれたカールペーパー1が保持され、髪束はカールペーパー1の剛性によりカール状態が保持される。

## 【0005】

【発明が解決しようとする課題】 上記従来のカールペーパー1においては、巻いた髪束を固定するスティックが幅方向の中央部にある複数の透孔2に通される。ところが、透孔2が径方向に直線的にラップすれば、それら透孔2にスティックを通しやすいが、実際にはそのようにラップしにくく、また、ラップする部分が小さくなることもあり、スティックを通しにくかった。透孔2を大きくすれば、それだけスティックを通しやすいが、そうするとカールペーパー1自体の剛性が確保できなくなるといった新たな問題が生じてくる。

【0006】本発明は上記事情に鑑みてなされたものであり、カールペーパーとともに巻いた髪を固定するスティックを通しやすくしてパーマ作業の容易化、短時間化が図られるパーマ用カールペーパーの提供を目的としている。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】 本発明は上記目的を達成するためになされたものであり、髪をカールさせ、その髪にパーマ液を注いでパーマをかけるにあたり、髪をカールさせる際に髪とともに巻くパーマ用カールペーパーであって、髪のカール状態を保持可能とする所定の剛性を有する紙状素材により、カールさせる髪束の長さ幅に応じた寸法を有する略長方形に形成され、髪束の幅方向に沿って合わせられるその幅方向の略中央部には、髪のカール状態を保持させるために髪に貫通させるスティックの挿通孔が、長さ方向に沿って延びる長孔に形成され、かつ長さ方向に間隔をおいて複数並設されていることを特徴としている。本発明のパーマ用カールペーパーによれば、当該カールペーパーを髪束にあててともに巻き、径方向にラップする挿通孔にスティックを通して髪束に貫通させることにより、巻かれた髪束が固定される。挿通孔は長さ方向（巻かれた状態で周方向）に延びる長孔なので、巻かれた状態で径方向に並ぶ挿通孔は周方向に直線的に連続しやすく、したがって、それら挿通孔にスティックを通しやすく、パーマ作業の容易化、短時間化が図られる。

【0008】また、上記構成において、前記挿通孔の長さが、髪とともに当該カールペーパーを巻いた状態において、径方向に沿って位置する複数の挿通孔の一部が互いにラップするよう設定されていると好ましい。この場合、挿通孔は確実に径方向にラップするので、スティックを1回で確実に髪束に貫通させて固定することができる。

【0009】また、上記構成において、前記挿通孔の他に、前記パーマ液を通過させる複数の透孔が点在形成さ

(3)

特開平10-42934

3

れていると好ましい。この場合、パーマ液が透孔を通じて髪に染みとりやすくなり、パーマ作業がより短時間で行えるようになる。

【0010】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照して本発明の一実施形態を説明する。図1は、一実施形態に係るカールペーパーを示している。このカールペーパー11は、髪束のカール状態を保持可能とする所定の剛性を有する紙状素材により、カールさせる髪束の長さと同幅に合わせた寸法を有する略長方形に形成されている。その寸法は、カールさせる髪束に応じて設定され、例えば、長さ15〜20cm、幅5〜10cm程度とされる。このカールペーパー11の幅方向の中央部には、髪のカール状態を保持させるために髪束に通入させる後述するスティック14の挿通孔12が、カールペーパー11の長さ方向に沿って複数形成されている。これら挿通孔12は、両端が半円弧状に形成された長孔である。そして、その長さ方向がカールペーパー11自体の長さ方向に沿った状態で、かつ等間隔おきに形成されている。挿通孔12の寸法は、例えば長さ1.5〜2cm、幅0.5〜1cm程度とされる。特に長さは、後述するように髪束とともに当該カールペーパー11を巻いた状態において、径方向に沿って位置する複数の挿通孔12の一部が互いにラップするように設定されている。また、隣り合う挿通孔12の間隔は小さく、例えば、挿通孔12の長さの1/5程度とされる。

【0011】また、カールペーパー11には、上記挿通孔12の両側面に、パーマ液を通過させる多数の大小の円形の透孔13a、13bが、点在して形成されている。この場合、大きな方の透孔13aは、挿通孔12と長辺側の端部との間に、カールペーパー11自体の長さ方向に沿って4列形成され、これら大きな透孔13aの列の間に、小さな方の透孔13bが、やはりカールペーパー11自体の長さ方向に沿って形成されている。これら透孔13a、13bの列は、幅方向に等間隔おきに形成されている。また、小さな方の透孔13bは、大きい方の透孔13aに対し半ピッチずれて形成されている。各透孔13a、13bの寸法としては、例えば、大きな方は5mm程度、小さな方は3mm程度とされる。また、隣接する大小の透孔13a、13bの間隔は、例えば、透孔13aの径と同程度か、あるいはそれよりもわずかに大きい程度とされる。

【0012】次に、上記カールペーパー11により髪束を巻く方法、すなわちカールペーパー11の使用方法を説明する。上記カールペーパー11により髪束を巻くにあたっては、例えば、図2および図3に示すような、カーラー21を用いる。

【0013】まずこのカーラー21から説明すると、このカーラー21は細長い棒状のもので、中央部に円柱状の柄部22が形成され、その一端側には、すき櫛の櫛歯

4

23aが形成された櫛部23が一体形成され、他端側には、スリット24を有する巻き胴部25が形成されている。巻き胴部25は柄部22と同軸・同径の円柱状で、スリット24は、巻き胴部25の軸心を通ってまっすぐに形成されている。カールさせる髪束は、スリット24に差し入れられ、当該カーラー21を軸回りに回転させることで巻き胴部25に巻かれるわけであるが、巻き胴部25は、長さの異なる断面半円状の第1、第2の胴部30、40によって構成されている。

【0014】長い方の第1の胴部30は、その長さがおおよそ上記カールペーパー11の幅に相当する長さを有し、先端部がテーパ状に形成されている。このテーパ部31の先鋭端31aは、巻き胴部25の幅方向中心に位置しており、この先鋭端31aで、髪をすくったり選り分けたりすることができるようになっている。第1の胴部30のスリット24を形成する内面（スリット面）32は、巻き胴部25の軸心と平行で全面が平である。一方、短い第2の胴部40は、第1の胴部30におけるテーパ部31の基部からやや先端寄りまでの長さを有し、先端部はやはりテーパ状に形成されている。この第2の胴部40のテーパ部41は、スリット24側の内面が先端に向かうにしたがい第1の胴部の内面から離れるよう斜めにカットされ、なおかつその先鋭端41aは、巻き胴部25の幅方向中心よりも一側方よりに片寄っている。

【0015】すなわち、図3に示すように、第1の胴部30のテーパ部31は二等辺三角形に形成され、第2の胴部40のテーパ部41は、三角形ではあるが、頂点である先鋭端41aが一側方に片寄って長縁41bと短縁41cとを有する非対称形に形成されている。そして、第2の胴部40のテーパ部41の内面は、スリット24へのガイド面41dとされている。このガイド面41dの長縁41bと短縁41cに沿う部分は、斜めに面取りされている。第2の胴部40におけるガイド面41d以外の、スリット24を形成する内面（スリット面）42は、巻き胴部25の軸心と平行で全面が平である。そして、第2の胴部40が第1の胴部30よりも短いことにより、第2の胴部40の先端部と第1の胴部30のスリット面32とで段部26が形成されている。

【0016】前記櫛部23は、柄部22の一端から絞り部29を介して形成され、櫛歯23aは、柄部22の軸心の延長線上を通り、かつ各スリット面32、42に直交する方向に延びている。

【0017】さて、上記カーラー21とカールペーパー11を用いて髪束を巻くには、まず、カーラー21の柄部22を握り、第1の巻き胴部30の先鋭端31aを利用してカールさせる髪束を選り分け、次いで、カーラー21を180度持ち換えてその髪束をすき、カールできる状態とする。次に、すいた髪束を手で保持し、巻く外側の面にカールペーパー11をあてる。あてるには、髪

(4)

特開平10-42934

5

6

の延びる方向にカールペーパー11の長さ方向を合わせる。次に、カーラー21のスリット24に、髪束とカールペーパー11とを差し入れる。それには、第1の胴部30のテーパ部31のスリット面32にカールペーパー11の一方の長辺側の端部をあててからカーラー21を移動させて、スリット24に髪束とカールペーパー11とを差し入れる。その際、図3に示すように、第2の胴部40の長縁方向(矢印A方向)にやや斜めに移動させるとよい。髪束は第2の胴部40のテーパ部41のガイド面41dに当たりながらスムーズにスリット24に入っていく。

【0018】次いで、髪の延びる方向にカーラー21の軸方向を直交させ、カーラー21の巻き胴部25を髪束およびカールペーパー11の先端部に移動させる。続いて、カールペーパー11を外側にしてカーラー21を軸回りに回転させ、髪束をカールペーパー11とともに根元まで巻く。巻き終わったら、図4および図5に示すように、スリット24の幅方向すなわち巻いた髪束およびカールペーパー11の径方向にラップする挿通孔12にスティック14を通して髪束とスリット24に貫通させる。これで、巻いた髪束が固定され、この後、カーラー21を胴部23側に引いて抜き取る。カーラー21を抜き取っても、巻いた髪束はスティック14で固定された所定の剛性を有するカールペーパー11によりカール状態が保持される。パーマをかけるには、この後、パーマ液を注いで所定の処理時間を経過させる。

【0019】上記カールペーパー11によれば、当該カールペーパー11を髪束にあててともに巻き、径方向にラップする挿通孔12にスティック14を通して髪束に貫通させることにより、巻かれた髪束が固定される。挿通孔12はカールペーパー11の長さ方向(巻かれた状態で周方向)に延びる長孔であり、しかも挿通孔12の長さは髪束とともにカールペーパー11を巻いた状態において、径方向に沿って位置する複数の挿通孔12の一部が互いにラップするよう設定されているので、挿通孔12は確実に径方向に直線的に連続する。したがって、それら挿通孔12にスティック14を通しやすく、スティック14を1回で確実に髪束に貫通させて固定するこ\*

\*とができる。その結果、パーマ作業の容易化、短時間化が図られ、特に熟練を要することなくパーマ作業を行うことができるようになる。また、挿通孔12の他に、パーマ液を通過させる多数の透孔13a、13bが点在形成されているので、パーマ液が透孔13a、13bを通過して髪に染みとりやすくなり、パーマ作業がより短時間でできる。

【0020】なお、上記カールペーパー11は本発明の一実施形態であり、例えば、挿通孔12および透孔13a、13bの数は任意である。また、挿通孔12はカールペーパー11の長さ方向に沿って形成されていればよく、その形状は長孔であれば上記一実施形態に限定されない。また、カールペーパー11に予めパーマ液を含浸させておくようにし、髪束を巻いた後でパーマ液を注ぐ必要をなくすることもできる。

【0021】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、当該カールペーパーに形成された挿通孔は長さ方向(巻かれた状態で周方向)に延びる長孔なので、巻かれた状態で径方向に並ぶ挿通孔は同方向に直線的に連続しやすく、したがって、それら挿通孔にカール状態の髪を保持するスティックを通しやすく、パーマ作業の容易化、短時間化が図られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の一実施形態に係るカールペーパーの平面図である。

【図2】 本発明の一実施形態に係るカールペーパーとともにパーマをかける際に使用するカーラーの側面図である。

【図3】 同平面図である。

【図4】 本発明の一実施形態に係るカールペーパーの使用状態を示す正面図である。

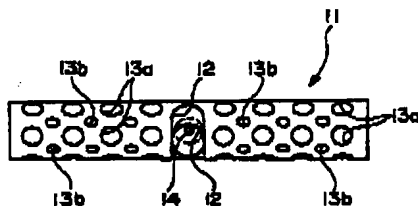
【図5】 同側面図である。

【図6】 従来のカールペーパーの一例を示す平面図である。

【符号の説明】

11…カールペーパー、12…挿通孔、13a、13b…透孔、14…スティック。

【図4】



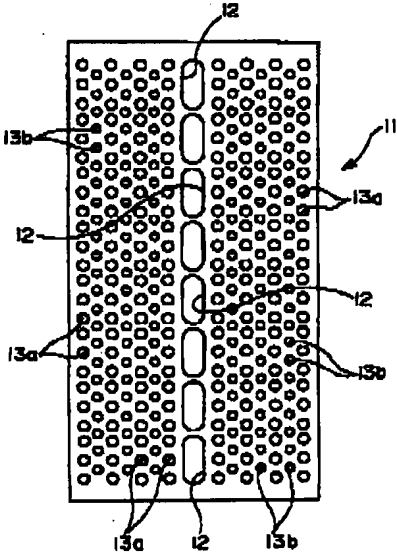
【図5】



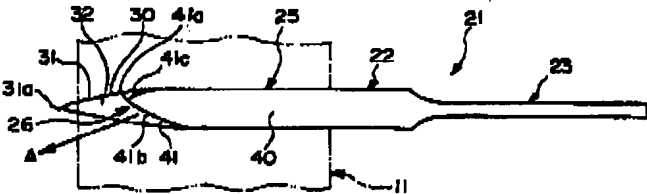
(5)

特開平10-42934

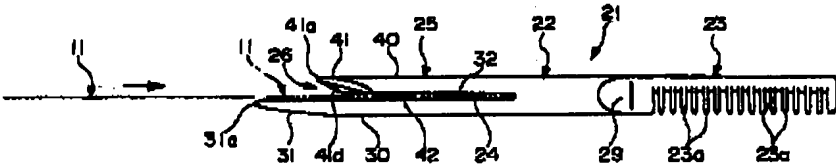
【図1】



【図3】



【図2】



(6)

特開平10-42934

【図6】

